

令和8年度第1回鳥取市政懇話会 議事概要

日 時：令和8年7月14日（火）13時30分～15時30分

会 場：鳥取市役所本庁舎7階 全員協議会室

出席者：【鳥取市政懇話会委員（13名）】

会長 平井耕司委員、副会長 西垣豪委員

石川妃奈穂委員、稲田優子委員、神部みゆき委員、田中ありさ委員、

田中節哉委員、田中道雄委員、寺口嘉昭委員、渡世唱子委員、中井みずほ委員、

西原牧夫委員、野村康典委員

【鳥取市】

深澤義彦市長、河井教育長、塩谷総務部長、渡邊企画推進部長、

谷口経済観光部長、長石農林水産部長、河田都市整備部長、

福山経済観光部次長兼企業立地・支援課長、

大角スマートエネルギータウン推進室長、小谷農政企画課長、

藪下販路開拓・企画室長、米原林務水産課長、筒井まちなか未来創造課長、

上田企画推進部次長兼創生企画課長

1 開会

2 市長あいさつ

本日は大変暑い中、また、大変お忙しい中、本年度第1回となる市政懇話会にご出席いただき誠にありがとうございます。委員の皆様におかれては、日頃より鳥取市政の推進に格別なるご理解、ご支援を賜っており、改めて感謝を申し上げます。

本日は新たな任期を迎えてから初めての市政懇話会である。どうか委員の皆様には忌憚のないご意見を賜りたい。

今回の議題は私の4期目の市政公約についてである。ご承知のように、現在、非常に混沌とした状況にあり、イラン情勢を背景に原油の高騰、物価高騰等が続いており、地域経済及び地方自治体を取り巻く状況は大変厳しい状況が続いている。そのような中で、明るい未来を切り開いていくことが各自治体に今まさに求められているものと考えている。

私は選挙に臨むにあたり三つの公約を掲げた。1.暮らしやすく、住み続けたいまち、2.地域経済の活性化、3.にぎわいあふれるまち、この三つの政策公約を着実に実現に向けて進めてまいりたい。本日は特に鳥取駅周辺の再生及び地域経済の2点を取り上げさせていただきたい。委員の皆様から忌憚のないご意見・ご提言賜るようお願い申し上げます。

本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

3 委員自己紹介

4 会長、副会長の選任

- ・会長 平井耕司委員（事務局より提案すること及び提案内容に委員全員が承諾）
- ・副会長 西垣豪委員（会長により指名）

○平井会長

本懇話会は委員改選後、今回が初めての開催となる。ご承知のとおり、鳥取市政の今後の向上・発展に必要な会議だと認識している。市民生活に直結するような様々なテーマのもと懇話会を進めてまいりたい。

本日のテーマは、公約の中でも特に「鳥取駅周辺の再整備について」及び「地域経済について」の2点であり、現在の時勢にあったテーマであると考え。各分野の委員の皆様から忌憚のないご意見をいただき、活発な議論をしていただきたい。

○西垣副会長

会長を支えながら委員の皆様が円滑に発言できる環境を整えるとともに、皆様の様々な意見が鳥取市に届く場となるよう、本会の運営に努めてまいりたい。

5 鳥取市政懇話会について

（説明）

6 議事

- （1）市長公約（4期目）の取組方針について・・・・・・資料2
- 鳥取駅周辺再整備について・・・・・・資料3

（説明）

（意見交換）

○平井会長

今説明のあった駅周辺再整備については、私が言うまでもなく、皆様が非常に大きな期待を持っておられる事業だと思っている。今日は忌憚のないご意見をお願いしたい。

○西原委員

企業誘致や街角に新たな企業を、といった説明があったが、企業を起こし前に進めるには、本人のやる気だけでは難しい面があると思う。金融との連携について何らかの説明をいただきたかった。

例えば鳥取市が行っている補助制度や、金融機関や保証協会による支援についてなどの説明があるとよかった。企業誘致や新規創業など、言葉は綺麗だが実際に取り組むとなると

難しい面もあると感じたため意見させていただいた。

■谷口経済観光部長

経済観光部としては、創業支援に関わる制度融資のほか、金融機関と連携した伴走支援等も行っている。本日は特に中心市街地への事務系企業の誘致に特化してお話をさせていただいた。

ご指摘のとおり、起業に関わる支援は多岐にわたる。大規模な企業誘致から個人の起業支援まで、様々な支援制度を創出し対応している。

特に中心市街地の活性化という面では、若者の起業・創業を支援したいと考えており、先ほど申し上げたようにコミュニティマネージャーが常駐をし、随時相談が受けられる体制を整えている。また、若者が集まるスペースを確保するとともに、既に起業されている方などとの交流等も生み出しながら、新たな創業支援をしていきたい。

○西原委員

企業誘致に関しての私の持論だが、過去に県や市が多大な支援をして誘致した企業が、1～2年で撤退したというようなケースが鳥取県内でも存在する。もう少し身辺調査をしてから企業を迎えるべきだと私は思う。補助金等の返還の必要があるものの、遡及権があっても実際には回収が困難な状況もあったと思う。

そのため、企業誘致の前段階において、身辺調査と財務内容の調査をしっかりと行った上で誘致に臨んでもらいたい。

○平井会長

金融機関の立場から申し上げますと、以前より、県も含めて企業誘致については多くの課題があると思っている。企業誘致をするだけでなく、その後のフォローも重要である。事業は継続して初めて成立するものであるため、企業の内情や財務状況などをしっかり調査したうえで、企業誘致を進めるとともに、さらには県外からの人材確保にも取り組んでいく必要がある。

金融機関のみならず、そういった知見を行政の方々も身に付けていただき、安心・安全かつ将来性のある企業誘致をしていただきたい。

○野村委員

駅の北口にバスターミナル、北口広場、複合施設とある。複合施設の中にはシネコンの誘致が予定されているように聞いている。日交、日ノ丸、くる梨とバスが走ってはいるが、自家用車で通勤・通学される方が多い中で、バスを利用して駅前にどれだけ人が集まってくるのか。人が集まる仕掛けについて、まずそこから考えないといけないと思う。人が集まらないのに施設だけ整備をしても効果がない。まず、その点をどのようにお考えなのかお聞きたい。

また、駅の北口と南口についても伺いたい。現状では北口と南口がそれぞれ独立した駅のような印象を受けるが、両者を連携・回遊できるような動線や仕掛けについて、どのように

お考えなのかお聞かせいただきたい。

■河田都市整備部長

鳥取駅に人をどのように集めてくるかという点について。

現在、鳥取駅の1日の乗降客数は約1万人となっている。まずはこの交通の利用者、通過型の利用となっている層を、北口広場、複合施設等を整備することで、滞在型の利用へと変化させたいと考えている。

複合施設は、商業施設など民間施設と併せて、多世代の方が交流できる行政施設を整備することで、駅利用者以外の方にも足を運んでいただけるように検討している。

また、自家用車利用の方の集客については、複合施設の西側に北口交通広場の整備を計画しており、複合施設の規模に応じた民間事業者による立体駐車場等の整備も検討をしている。車で鳥取駅を訪れたい方にも利用しやすい環境を整えていきたいと考えている。

また、駅の南側と北側が分断されているように見える点については、南口広場と北口広場を、コンコースで結び、回遊性のある駅周辺の再整備を検討している。現状、夜間はコンコースが閉鎖され通過できない状態になっているが、24時間通過可能となるよう、JRと協議を進めているところである。

○平井委員

先ほどのご意見にもあったが、複合施設にどんな施設が入るのか、市民の関心は非常に高い。

また、駅周辺の再整備については、駅のみならず、駅前の道路をはさんだ丸由側など周辺エリアへの経済効果も含めて広い視点での取り組みを、商工会議所としてもお願いしたい。その点についてはどうお考えか。

■筒井まちなか未来創造課長

駅周辺の再整備と併せて、当然、このまちなかの活性化についても同時に取り組んでいかないといけない。現在、経済界や商店街の皆様と一体となって検討を進めている。

今回の駅周辺再整備の取り組みがスタートしてから、このまちなかで民間投資の動きも着実に増えている。こうした民間の動きをさらに加速させていくような取り組みを、市としてもあらゆる支援制度の創設を含め、関係者と連携し検討を進めてまいりたい。

○平井会長

具体的な内容を一日でも早く市民の皆様にお示しいただくよう、よろしくをお願いしたい。

また、先ほど経済観光部から紹介があったが、カトカミのような施設が整備されており、今後はそのようなワーキングスペースの充実が、鳥取の将来のためには必要だと思う。若者やスタートアップの分野に向けて、鳥取市としてもより積極的に情報発信をすべきではないか。若者代表の石川委員の意見を伺いたい。

○石川委員

説明資料を拝見し、感じたことを2点お話をさせていただく。

1点目が、鳥取駅周辺のイメージについて。駅というものは、どの地域に行っても構造が

ほぼ同じで、新幹線口や商業施設といった共通の要素が並んでいる。そんな中、「鳥取駅といえばこれ」と言えるものがあると、すごく楽しくなると思う。例えば、駅舎の上に巨大なラクダのオブジェが乗っているなどのインパクトがあれば、県外の方にも「鳥取駅はラクダがいる駅」として、楽しみながら覚えてもらえるのではないかと感じた。

2点目は、就活中に感じたこと。私は現在大学4年生で、つい最近まで就活をしていた。その活動をしていた地域が二つあり、どちらも駅の再整備をしている地域だった。一つは、再整備に成功し、県外から多くの人が訪れ、地域が活気にあふれていた。もう一方は、大きな再整備計画が頓挫してしまい、駅周辺に何もなくて、わくわく感が感じられない地域になってしまっていた。それらを見て、自分がどちらに住みたいかと考えたときに、やはり人が集まり、地域の人もわくわくするような未来が見えるところを選びたいと思った。鳥取駅の再整備が進む中で、未来がわくわくするような地域になれば、若者も就職を考えるときに、選びやすい地域になるかもしれないと思った。

○平井会長

非常に建設的な意見だと思う。こういった若い方の意見は、実現の可否はともかく、柔軟な発想による提案としてぜひ参考にさせていただきたい。

○田中（道）委員

今の石川委員の意見に賛同した。

事前にいただいた資料を拝見したときには、今日の会が、鳥取駅周辺の再整備、つまり駅そのものの話だけに終始してしまうのではないかと感じ、少し心配だった。今日、席上で追加資料をいただき少し安心した。

石川委員の話にもあったように、人がわくわくするとは、まちがにぎわっているということであり、にぎわうとは人が行き交うことだと私は考える。駅周辺に人が行き交うだけでは、まちのわくわく感にはつながらないのではないかと感じる。中心市街地の活性化を大命題にするのであれば、平面的な都市整備計画をより空間デザインとして立体的に捉え、「ここがにぎわい、人が歩く」という印象を与えることが大前提としてあるべきだと思う。

その上で、城跡の方向あるいは駅の方に人がどのように動くかを考え、その結果として駅周辺にどんな機能を配備すべきかが見えてくることで、市民の方々の納得感が生まれるのだと思う。駅周辺だけを切り取って、どういう機能を配備したらよいかを考えると、様々な意見が出て収拾がつかなくなるのではないかな。

本日いただいた追加資料にあるものがすべてだと思う。この計画をより市民の方々がわくわくするものに作り上げるということが重要だと思う。

その上で、複合施設にこういう機能があれば中心市街地を行き交う人が何かを感じられる、というストーリーの展開が示されると、今後の議論が深まっていくのではないかと感じた。

○神部委員

先ほどから複合施設の内容について話が出ているが、数年前に文化交流課主催の、駅周辺

再整備に関するフォーラムに参加したときにはアミューズメント関係や文化施設関係などの要望が出ていた。

こどもから大人まで、親子が楽しめるアミューズメント施設や、高齢者も含めて様々な文化活動をしている人たちが集まる文化施設などの要望が多かったように思う。今回の複合施設にはそういった文化施設が含まれていないのではないかという懸念があり、文化活動に関わる方の中にはがっかりされている方も多い。

また、駐車場がなければ行けないという話も巷で出ていたが、先ほどの説明で検討されているということがわかり、その点は安心した。

人が集まることは一番の目標だが、現状、休日は駅前よりもイオンモール鳥取北の方に、観光客も含めて多くの人が集まっている。その人たちを駅前に呼び戻すためには、複合施設の内容が重要だと思う。数年前のフォーラムで出された要望を踏まえていただき、市民の皆さんが本当にわくわくして集まれるような施設を組み込んでいただきたい。

■河田都市整備部長

複合施設について多くのご意見をいただいた。

若者を中心としたアンケートでは、シネコンを求める意見が数多く寄せられており、現在、実現可能性について事業者と意見交換を重ねている。

基本的には、先ほどの説明のとおり、行政機能と民間施設との合築を計画している。公共施設部分は、交流機能として子育て支援機能、市民活動の支援をする機能、青少年活動支援機能を中心に据え、来年度、複合施設に特化した基本計画を策定していく。併せて民間の商業機能についても事業者との調整を進めていきたい。

■渡邊企画推進部長

もう1点、文化施設の話が出た。文化施設に関しては昨年度の段階で、10年間を目途に作り上げていくことを提案させていただいている。その中では今後5年間かけて、場所も含めた具体的な内容を皆様にご提示しながら、ご意見をいただいて決めていきたい。

この駅周辺の再整備の計画も少し視野には入れているが、それにとらわれず、駐車場の確保も含め、市民の皆様にとって最も利用しやすく集まりやすい場所となるよう、検討してまいりたい。

○平井会長

駐車場の話があったが、現在、駅周辺には大型の立体駐車場もあるが常に満車状態である。市職員の方にも、ご家庭でこの問題を話題にしていただけたらと思う。駐車場は点在しているが、特に主婦の方は、立体駐車場の有無が駅前に足を運ぶかどうかの判断基準になっていることが非常に多い。郊外のイオンモールに人が流れているのも、おそらくこうした駐車場の利便性が大きな要因ではないかと思う。

駅前に大きな立体駐車場の計画があるとのことだが、利便性の向上も含め、主婦の方の意見もぜひ取り入れていただければ、より建設的な駐車場整備ができるのではないか。そのような意見が商工会議所の中でも話題に出ていることを報告しておきたい。

また、駅に人を呼び込むためには、石川委員の意見にもあったが、強いインパクトが必要だと感じる。実現の可否はさておき、鳥取は温泉の街でもあるので、ある一定区間に湯を流し、湯けむりのまちとしてPRするなど、大胆な発想も必要ではないか。そういった声も経営者の中には聞かれる。こういった突拍子もない発想をどんどん出していただきたい。

○稲田委員

私もこの複合施設のことや駐車場のことなどどうなっているのかずっと気になっていた。今日説明を聞いて、何となく様子がつかめてきたが、もともと人口の少ない鳥取市において、駅周辺だけでにぎわいを創出するのは少し厳しいのではないかと感じる。観光客の方にも楽しんでいただけるような駅づくりはもちろんのこと、駅から歩いて行ける観光地として鳥取城跡のPRなども必要だと思う。

先ほどの話で、インパクトのあることをするのであれば、鳥取城跡までの移動手段として人力車やかごなどの体験型の移動手段を整備するなどがあっても面白い。そうすると鳥取城跡の周辺のにぎわい創出にもつながるのではないかなと思う。

現状、鳥取城跡周辺は寂しい印象を受ける。あまり比べるものではないと思うが、米子城跡周辺は大変にぎわっている。大山との景観やダイヤモンド大山などをPRし、非常に盛り上がっている。鳥取城跡においても同様の、魅力ある取り組みをしていただけたらと思う。また、女性は土産物店やカフェなどを好む傾向にある。そういったものも充実することを期待したい。鳥取駅から鳥取城跡までの道に楽しめる仕掛けなどがあると盛り上がると思う。

○西垣副会長

私は駅のデザイン会議にも出ているが、観光コンベンション協会では、砂丘を訪れた観光客を鳥取城跡へ呼び込むため、鳥取城跡の魅力向上が必要と認識している。おそらくそれには、一過性のイベントだけではなく、日常的に何かがある状態を生み出す必要がある。先ほどから議論されている駐車場をはじめとし、あらゆるものの考え方を整理しなければならないのではないかなと思う。

先ほど田中（道）委員が言われていたように、駅あるいは鳥取城跡のどちらかにすべての機能を集約するのではなく、追加資料に示されているエリア全体で考える必要がある。どこで車を受けて、どこから観光客に歩いてもらうか、また、市民が駅に集まった後どうまちなかを回遊するかなど、各エリアの役割分担の整理を同時にした方がよい。個別の施設やエリアだけの議論になると、そこに多くの要望が集中し、全体として何を目標しているのかわからなくなってしまう。

今後、市民の皆様からご意見をいただく中で、こうした全体像の整理と説明が必要ではないかなと思う。「駅周辺が美しい姿になる」という説明だけでは、全体像が伝わらないと思う。

○平井会長

今後は人口が増加する時代ではないため、人口減少の中で鳥取市がいかに生き残っていくかが問われている。その観点から、コンパクトシティやスマートシティといった、将来を

見据えた持続的な取り組みも必要になると思う。

その中で、この2核2軸という考え方は非常に有効だと思う。西垣副会長からもご意見があったように、あれこれするのではなくこの2核2軸に特化して、鳥取市の将来をどう考えるか、もっと幅広い観光・産業というような意味合いでこの事業に取り組んでいただくことが重要ではないかと思った。

○田中（道）委員

最初の発言に言葉足らずなところがあったため補足させていただく。

追加資料について、平面で見たときに黄色のエリア（まちなかエリア）に、人が歩くイメージが湧かないということが、お伝えしたかった点である。このエリアに人が集う、行き交うイメージをつくるためにはどうするか、どのような機能を配備すればよいかが、肝になるのではないか。このエリアにさえ人がしっかり集まれば、ピンク（鳥取城跡エリア）にも緑（駅周辺エリア）にも自然と人が行き交うと感じる。

黄色いエリア（まちなかエリア）の空間ビジョンをもう少し明確にすることで、人流が生まれ、そこに若い方々がわくわくするような仕組みを与えていけるのではないか。その上で緑（駅周辺エリア）をどうするか、複合施設はどうあるべきかという議論へ展開していくと、市民の皆様にとって納得感のあるビジョンと実効性になるのではないか。

○中井委員

鳥取駅周辺再整備についての資料を事前に拝見させていただいたが、この「にぎわいあふれるまちにします」という「にぎわい」の定義とはどういうことなのかが気になった。人が通ることなのか、それとも滞在時間の長さなのか、あるいは、周辺店舗の入店率の向上なのか、「にぎわい」とは様々なイメージを持たれると思う。

子育て中のお母さん方をはじめ、多くの市民が本当に駅前の再整備を楽しみにされている。今後も市民の意見を取り入れながら進められると思うが、意見がもう少し出しやすい環境づくりや、情報発信もお願いしたい。「この場所にこういったにぎわいが生まれる」「ここで人が行き交う」「ここではこんなイベントが行われる」などのイメージができるような情報発信があれば、より多くの意見が出てくるのではないかと思う。

■河田都市整備部長

先ほど少し触れたが、今年度、中心市街地のグランドデザインを策定していく。

これまで中心市街地活性化計画は、地域をエリアごとに分けて、それぞれのまちづくりを検討するというものではなかったが、この度のグランドデザインの策定にあたっては、中心市街地全体の将来像に加えて、資料に色分けをしている各エリアにおいて、それぞれのまちづくりに携わっておられる方、学識経験者、まちづくりの専門家、そして市民の皆様のご意見もいただきながら、特色あるまちづくりをエリアごとに考えていく計画としている。

その中で、それぞれのエリアを繋いで、いかに回遊性を持たせていくかの指針を作りたいと考えているところであり、それぞれのエリアにおけるにぎわいについてもお示していきたい。

(2) 地域経済について 資料4

(説明)

(意見交換)

○田中(あ)委員

私は河原町の小畑で農業を営んでおり、この地域はまもなく限界集落となる可能性があると感じている。これから高齢者が増えていくという状況の中で、今は60代・70代の方が「遊休農地を増やしてはいけない」という思いで懸命に農業をされているが、あと何年続けられるかはわからない。

また、地域には農業をしにくい農地が多い。一町窪であれば作りやすいとは思いますが、5畝程の田畑は草刈りなど管理の方が大変である。

一方、近年では若い方が農業参入しても農協を頼らない、いわゆる農協離れが増えている。農業機械の導入や貸し出しなどにもう少し力を入れてもらえたら、もう少し農業もしやすくなるのではないかと思う。

○平井会長

鳥取は大きな産業が少ない地域であり、一次産業は絶対に残さなければいけない業種である。今言われたような担い手不足については、深刻な課題である。

J Aの話も出たが、他県では大型の農業組合や民営化に近い形態での取り組みがあり、成功例もあれば失敗例もある。そのような異なる観点で、農業・水産業の担い手、後継者の方々がコミュニケーションを取れるような組織があると効果的ではないかと感じた。

○野村委員

地域経済について伺います。先程、工業団地は分譲可能な区画があと2区画しかないと言われたが、具体的に次の場所の選考など進めておられるのかお聞きしたい。

また、今の鳥取自動車道は片側対面通行だが、複線化して大都市との交流をより一層スムーズにする計画も考えておられるのか。当然鳥取市だけでできるものではないが、県や国と連携してそういったことを考えておられるのかお聞きしたい。

それから、これは希望的観測だが、現在千葉県をはじめ全国各地でAI関連のデータセンターの設置が進んでいる。鳥取市は水も綺麗で、土地も確保できなくはないと思うが、そういった企業の誘致も検討の余地があるのかどうかお聞きしたい。

■福山企業立地・支援課長

次期工業団地の整備については、令和5年度に調査事業を行っており、その中でいくつかの候補地が選定されている。具体的には、いずれもインターの周辺地区となっている。現在、調査結果や社会情勢などの様々な要素を勘案しながら、新たな工業団地整備を検討している。

現在の国内情勢としては、コロナ禍や近年の国際情勢を踏まえて、企業の国内投資が活発化してきている。その流れの中で鳥取市としても、企業誘致の受け皿となる工業団地の整備に向けて取り組んでいる。

企業誘致にはいくつか鍵があると思っており、用地の確保や支援制度の充実、人材確保、また、サプライチェーン、水や電気などのインフラ供給が鍵になる。これらの要素を整備し、工業団地だけではなく、総合的に鳥取を選んでもらえるよう取り組んでいる。

また、データセンターの誘致については、現在いくつか相談は受けているが、電気の供給について問題があり、誘致には至っていない。データセンターは大量の電気が必要になるため、原子力発電設備がある地域に比べ、その点が鳥取市は若干不利になっており、正直誘致は厳しいのが現状である。

○神部委員

鳥取市が昔から企業誘致に力を入れておられるのは把握している。

先日の新聞に若者を対象とした「地元に残りたいか」という意向調査の結果が載っていた。鳥取県は、地元に残りたい希望者の割合が3割～4割程度で、全国でも下から2～3番目の低さであった。

企業誘致の話をたくさんお聞かせいただいているが、その成果として、若者の雇用や、若者の鳥取で働くことの夢や希望に繋がっているかという懸念を感じている。

少子高齢化が進み、一次産業の担い手の減少が加速しているという話があったが、人口減少は本当に目に見えて起きていて、これが一番大きな問題だ。その解決策として企業誘致を推進しておられるのだと思うが、その実績が、若者たちの雇用に数値として出てきているのか。

■谷口経済観光部長

企業誘致をすることで、多様な雇用の機会創出に繋がっているということが一つあるかと思う。

一方で、若者や女性にとって魅力ある職場環境になっているのかについては、これから社会に出る学生や女性の声をしっかりと聞きながら、それを企業経営者や経済団体と共有し、職場環境の向上に繋がっていくことが重要であると考えている。

商工会議所と連携し特別委員会を設置しており、その委員会と連携をしながら職場や業種を超えて若者や女性が繋がり、働き方やキャリアに関する意見や悩み、経験を気軽に共有できるイベントを計画し、それを企業や経済団体と共有して、雇用政策に生かしていく取り組みを進めてまいりたい。

市内企業の意識改革や多様な働き方の推進を後押しするとともに、その積極的な声を産業界と共有をしながら、本市に若者が残り、魅力ある職場となるように取り組んでまいりたい。

○田中（節）委員

企業誘致は働く場を作るだけでなく、地域に投資を呼び込んでくる意味でも、産業基盤を強化する非常に重要な事業だと思う。引き続きご尽力いただきたい。

工業団地の分譲区画が減少しているという話があったが、一方でこれまでの工業団地で、撤退された企業も多くあるのではないかと思う。大型の企業が撤退された後の工場が未利用のままで残っているものは、流動化を促進していただければ、鳥取市の規模に合った企業が入居できる余地もあるのではないかと思う。検討していただけたらと思う。

次に農業について、中山間地に限界集落が増えている中で、従来の農業インフラ、水路の維持などができなくなっている地域が多々顕著になってきている。こうした状況を踏まえ、農業をやってみたいという若い方が気軽に中山間地に移住し、小規模でも農業を始められるような環境が整ったらよいのではないかと思う。

実際には都市計画上の問題もありなかなか実現できないこともあると思うが、例えば市街地に住む人は中山間地にセカンドハウスをもち、土日は農業をしながら、地域住民とともに農業インフラ整備に携わるといった仕組みを整えていただくのも一つの対策ではないかと思うがいかがか。

■福山企業立地・支援課長

まず、空き工場の活用については、そこまで多くの空き工場が点在するわけではないということはお伝えしておきたい。その上で、企業誘致の際には当然、工業団地の分譲と併せて、空き工場や空き物件の紹介も行っている。

具体例を挙げると、昨年、鳥取インター近くに立地していた誘致企業が撤退されることになった。その際、撤退される前の段階から誘致活動を行い、岡山県総社市に本社がある金属加工企業を誘致した。当該工場を買い取り、昨年から操業されている。また、現在進行中の案件としても、布袋工業団地の空き工場にも次の入居候補企業と交渉を進めており、こういった空き物件を有効に活用するよう取り組んでいる。

また、農業の担い手不足の話があったが、農業に参入する企業も有力な担い手の一つと位置づけ、農業参入企業の誘致を促進している。具体的には、鹿野町のメイワファーム HYBRID が挙げられる。これは大阪に本社を置く包装資材メーカーが鳥取に進出した縁をきっかけに、温泉熱を活用したいちごのハウス栽培に新規参入されたものである。現在はさらに、浜村温泉を活用した企業による農業参入についても、農林水産部と連携しながら取り組みを進めている。

また、先ほどの補足説明だが、企業誘致により若者定住にどれだけ効果があったかについて、資料 2 ページをご覧ください。マルサンアイ鳥取は、現在、社員が 70～80 人ほどおられる。JCB エクセは、250 人ほど社員がおられて、さらに 9 割が女性である。県外に進学していた大学生等の U ターン者も相当数おられ、また、地元の若者、女性も多く就職しておられる。こういった具体例をお示ししながら、企業誘致が地元の産業振興に繋がっているということを発信していきたい。

■小谷農政企画課長

農業を気軽にできる環境づくりのご提案をいただいた。ご指摘のとおり、高齢化が進み、草刈りなどの農作業の負担にだんだん耐えられなくなり離農される方が増えている。

そのような中、先ほど資料説明させていただいた通り、少人数でも大規模経営ができるスマート農業を国が推進している。一方、本市としては、大規模農業だけを育てるのではなく、半農半Xという、本業を持ちながら趣味で農業をするような方や、兼業農家、リタイアされる65歳以上の世代の方に着目しており、それらの方々といかに農業を継続していくかの取り組みを検討している。

具体例として、国府町大茅地区は、高齢化率・離農率がともに高い地域だが、地元企業・認定農業者・学生などと交わることで交流人口を拡大し、農村・農業を守っていく取り組みを現在進めている。こういった取り組みも今度の鳥取市の農業を進めるうえで重要なことであると認識し、取り組んでいる。

○渡世委員

私は生産者・農作物を市民の方に繋げる活動をしているのだが、その中でとても喜ばしく感じたことがある。大阪の中之島に月1回出向き、農産物の販売を行っている。オフィス街ということもあり、販売に苦慮することもあったのだが、今では「鳥取の農産物が恋しくて、1か月が待ち遠しい」というファンが増えている。その決め手は、鳥取の大地の恵みが安全・安心で美味しく、そして安いということ。そういった評価を非常にたくさんいただいている。中には、「これが毎日食べられるのであれば鳥取に住みたい」ということで、移住された方もいる。マルシェで様々なお客様とお会いするが、水がおいしいことが移住のきっかけになったという声を聞く。私達が当たり前に行っている農作物や水が、一歩外に出たら宝物になっていることに自分自身も気づかされた。これは大きな財産だと思う。生産者の高齢化も深刻ではあるが、そのような声を励みにしていただいている。一方で、高齢になると、市場への出荷も自分ではできなくなるという課題もある。現在、週に2回トラック便を利用して生産者から直接農作物を預かり、販売をしている。その都度課題を見つけながら改善を重ね、一つでも多くの農作物が売れるよう工夫を続けている。

鳥取の魅力ある大地の恵みがますます活性化するよう、スマート農業も取り入れながら産業に繋がるように工夫していただきたい。

○寺口委員

現在の大学の話も絡めてお話をさせていただくと、資料3ページに自然資本産業の創出という言葉があった。大学では令和10年4月に新しい学科をスタートさせるべく検討を進めている。新たな学科は保全生物学科という名称になる予定だが、その中身は、鳥取の豊かな自然を保全していくことが経済的な価値の創出に繋がるのではないかという部分であり、現在の学長の観点である。鳥取市が推進しようとしている動きが、卒業した学生とマッ

チすることや、あるいは学生の教育へと繋がっていくと大変嬉しく思う。

またこれは個人的な意見だが、先ほど事務系企業の誘致という話があったがぜひ進めていただきたいと思っている。近年は理系分野が注目される傾向にあるが、多くの学生の考え方やあるいは鳥取県内の高校生の進め方などを見ると、まだまだ事務系の企業を目指す若者も多い。事務系企業の誘致が進むと、若者の定着にも繋がりがやすいと思う。

また、農林水産業の分野で非常に担い手が不足しているという話があった。少しわかりにくかったのが、鳥取市はこの第一次産業でどれだけの規模のものを必要としているのかという部分。そこが示されると、足りない労働力をスマート農業でどれだけカバーできるか、インターネットショップなどの新しい取り組みを進めることで、少ない人数でも経済効果を上げられるか、などが見えてくると思う。鳥取市の中で第一次産業を、どの程度の規模を確保すべきと考えているのか、その部分があればもう少し話もわかりやすかったと思う。

○平井会長

今日は鳥取駅周辺再整備について、そして地域経済について、様々なご意見を頂戴した。

皆さんからご意見を頂戴した中で、鳥取の魅力をいかに次の世代に伝えていくかということが、人口減少問題の解決にも繋がるのではないかと思った。現在、若者の県外流出が非常に深刻な社会問題になっている。市内企業の離職者の話を聞くと、意外と鳥取市の魅力が知られていないことに気づかされる。例えば、市内にはニッチな企業はたくさんあるのだが、知らない若者は多い。

こうした状況を踏まえると、企業誘致によって新たな分野の企業が進出した際には、その情報を、教育現場を通じて学生に周知することが大事だと思う。さらに、近年は就職の際だけでなく、離職の際にも親に相談しながら決定する人が増えていることから、学生の保護者にも周知することが必要だと感じる。

個人的な意見だが、義務教育の段階から鳥取市の魅力を伝える取り組みを進め、学生本人のみならず保護者に向けても鳥取市の魅力を発信していくことが非常に重要だと思う。情報の中身も重要であるが、それをいかに発信して、若者の流出を防ぐかということも、今後必要なことであり、次の世代に活かせる一つの案ではないかと思う。

○平井会長

最後に、西垣副会長に総括をお願いしたい。

○西垣副会長

様々なご意見があった。各分野の皆様からのご意見というのは貴重な意見だと思う。幅広く意見を伺うことで、改めて本日のテーマを見つめ直し、新たな気づきもたくさん得られたのではないかと思う。

本日の議論は、鳥取市が今後の事業を進めていく上で参考にされるものだと思うが、今後様々なことを決定する際に、多様な意見を踏まえながら、決定するための軸となる部分を今

回の議論の中で見つけていただき、今後の進め方を具体的にお示しいただきたい。

最後に、地域経済に関連して一言意見を述べさせていただく。若者を繋ぎ止めることにエネルギーを注ぐのか、それとも、もう1回帰ってきたくなるまちになることを意識するのか、どちらに注力するかによって、大学の先生方の学生に対する向き合い方や、県外に進学した学生との今後の繋がり方が変わってくると思う。

結果として、鳥取市が目指しているまちづくりが、多くの人が鳥取に戻りたいと思えるまちづくりに繋がっていけば、本日の議論の先に繋がっていくのではないかなと思う。本日の皆様の貴重な意見をどうか、これからの鳥取市の施策に反映していただくよう、よろしくお願いしたい。

■深澤市長

長時間に渡りご議論いただいたことに心より感謝申し上げる。実に多くの示唆に富むご提言・ご意見を賜ったことを重ねて感謝申し上げます。

先ほど平井会長と西垣副会長から総括をしていただいたため、改めて詳細に触れることは控えたいが、やはり若い方が進学や就職を機に市外に転出された後も、再び鳥取に帰ってきたいと思えるよう、まちの魅力をさらに高めていくことが重要だと考えている。鳥取に帰ってくることの動機としては、両親の高齢化のような事情もあると思うが、根本にはまちの魅力があるべきと認識している。

子育て支援や雇用確保はもとより、鳥取に住んで活躍したいと自然と思えるようなまちづくりをしていくことが求められている。これは容易なことではないが、その一つが鳥取駅周辺の再生である。

鳥取駅周辺の再生は、鳥取駅周辺に限定した取り組みではない。先ほど田中（道）委員から、黄色のゾーン（まちなかエリア）やオレンジのゾーン（市役所周辺エリア）など、各エリアを面的に捉えてにぎわいを創出していくことが必要ではないかというお話もいただいたが、私もその通りだと思っている。駅周辺の再生が進むことで、中心市街地からまたにぎわいが戻ってくるのではないかと期待している。

鳥取城跡については、歴史文化ゾーンとして現在、復元に鋭意取り組んでいるところである。駅周辺と城跡という両面から活性化を図ること、そして黄色のゾーン（まちなかエリア）はどういったコンセプトでまちづくりを進めていくかが重要なポイントになると考えており、内部で検討を進めているところである。

赤い一点鎖線で囲まれたエリアの中心市街地は中心市街地活性化基本計画では約 210 ヘクタールあるが、このエリアだけではなくて、市全体に波及していき、ひいては鳥取市全体または圏域全体ににぎわいや活力の創出へと波及していくことを目指している。引き続き関係機関と連携をし、地元の経済界の皆様のお力添えを賜りながら、駅周辺の再生をしっかりと進めてまいりたい。

来月には整備計画の素案をお示しし、パブリックコメントで市民の皆さんから広くご意

見をいただく予定である。また、多くのご意見をいただくため、今後ワークショップの開催も検討している。数年後には着工できるようなスケジュール感で着実に進めてまいりたい。

また農林水産業を含めた地域経済の活性化についても、様々な取り組みを進めていくこととしている。令和8年度は市の最上位計画である第12次鳥取市総合計画がスタートしたが、同時期に農林水産業振興プランもスタートした。各種計画やプランが一斉にスタートしたこの年度は、鳥取市が未来に向かって改めてスタートしていく重要なタイミングであると認識している。物価高騰や、エネルギー・資材の高騰など厳しい状況が続いているが、鳥取市は力強く前進をしていきたいと思っている。本日いただいたご意見・ご提言をしっかりと胸に刻み、全庁一体となって取り組んでまいりたい。

野村委員からいただいたご意見で、鳥取道の片側2車線化について、回答が漏れていたかと思うため補足させていただく。

道路公団時代に複線化のための用地買収は既に完了している。その後、国土交通省の新直轄方式に移行したことにより、片側1車線での整備になってしまったが、現在、追加車線の整備として、一挙に複線化はできないが4か所ほどで順次、片側2車線化が進んでいる。これを継続することで最終的な片側2車線が実現すると考えている。高速道路の特性である定時制の確保や、事故発生時の通行止めの影響などといった課題を解消するため、道路関係の期成会等でしっかりと要望し実現に向けて取り組んでまいりたい。

本日は長時間にわたり貴重なご意見を賜ったことを重ねて感謝申し上げ、挨拶に代えさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。